

新年明けましておめでとうございます。

お客様皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

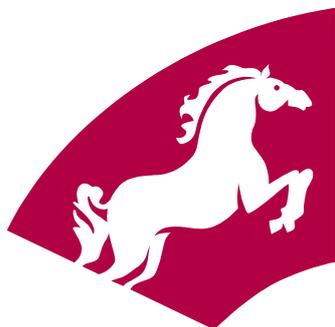
昨年は猛暑、豪雨、台風、竜巻と大変な気候に襲われた一年でした。被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

日本は世界的にも自然災害が比較的多い国です。日々の生活において、四六時中“防災”を意識することは難しいですが、“天災は忘れたころにやって来る”という諺に従い、いざという時のために最低限の“備え”をしておくことは必要なことだと思います。

さて、皆様の「ユニオンファンド」は、昨年一年間で 37.3%の値上がりになりました。設定来の複利年率に換算すると 13.5%の利回りになります。一方、現在の基準価額や運用実績は「明るい未来を切り拓いていくため」の“通過点”と考えております。

弊社は、広告や宣伝、電話セールスや訪問勧誘などを一切行っていませんが、昨年末現在の口座件数は対前年比 134%の増加となりました。

口座数の増加は、増税、社会保障費負担増、物価上昇などの将来生活に対する不安を背景に、国や企業に依存するのではなく、自らが積極的な行動に出た表れではないかと思えます。



“備えあれば憂いなし”

“備え”は災害に対してだけでなく、資産を“守る”ため、そして“殖やす”ためにも大切なことと考えます。

世界人口は着実に増加しています。人類が平和な暮らしと、明日のより良い生活を望む限り経済は成長していきます。世界経済の大きな“うねり”を捉えた資産運用は、年齢に関係なく必要な時代です。

弊社は決して目先の相場動向に左右されず、お客様の“安心”できる暮らしをご支援するため、お預かりしている大切なご資金を丁寧に運用して参ります。これからも一緒に「長期投資の道」を歩んで参りましょう。

本年も何卒ご厚誼を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 1 月 6 日

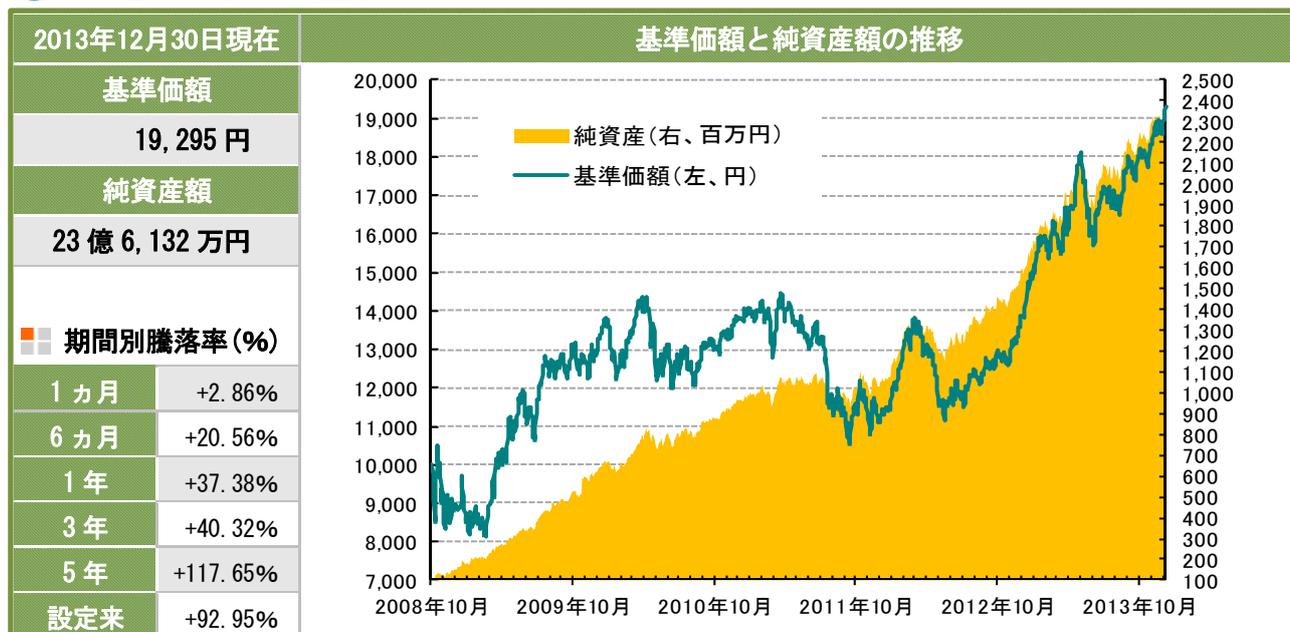
ユニオン投信株式会社
代表取締役 田子 慶紀



「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2014年1月14日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



* 複利年率 +13.48%

*「複利年率」とは設定から現在まで運用を行った結果、複利で換算した場合に何%でまわっていたかを表したものです。過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また個々の受益者ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

組入れファンドの内訳(組入比率は12/30付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標投資比率	目標比
さわかみF	日本	12.1%	12%	+0.1%
キャピタルF	欧米	16.4%	18%	-1.6%
ハリスF	欧米	19.5%	23%	-3.5%
コムジエストF	新興国	39.2%	47%	-7.8%
キャッシュ	—	12.8%	—	—

小数点第2位を四捨五入

ファンドマネージャー コメント

「自動車産業」から見た「名目 GDP」と「株価」

自動車産業は巨大な世界的な産業です。名目 GDP の動向を左右する産業とも言えます。自動車産業を通じて「名目 GDP」と「株価」の動きを検証してみました。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

所得水準と自動車保有台数 (図1、2)

自動車は現代生活には無くてはならない必需品です。また豊かさを象徴する嗜好品でもあります。

豊かさに連れ普及率(千人当り保有台数)は高まります。

BRICs 諸国では所得が目覚ましい増大と共に自動車保有台数も急増しています。

しかし先進国では既に上限に達している感があります。

- ・日本や英独仏伊では千人当り約 600 台の水準
- ・米国は国土が広く都市交通が密でないこともあり、千人当り約 800 台と高水準の保有率
- ・BRICs は千人当り 100 台を超えてきた水準

先進国は買い替え需要に限定されている市場ですが、BRICs は今後ますます新規需要が拡大する成長市場と言えます。

自動車「販売」(図3)

地域別の自動車販売状況は図3の通りです。

日本:「失われた 20 年」のなかで減少が続き、現在年 500 万台の攻防

英独仏伊:減少が続くも、年 1,000 万台水準で底打ちの動きへ

米国:リーマン・ショック後の落ち込み大
その後回復が継続 → 米国経済を牽引
現状は“ショック後に買い替えを我慢していた需要”が後押し
このため自動車需要は当分堅調が見込まれる状況

BRICs: 中国を中心に爆発的な販売増が続く

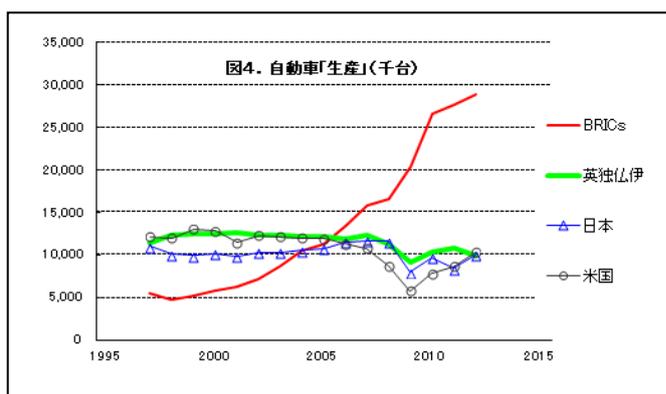
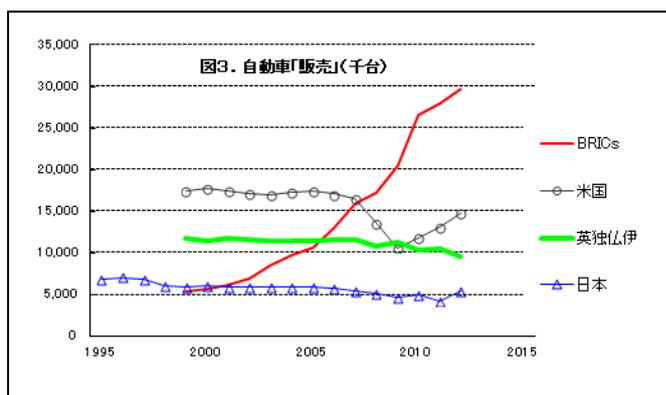
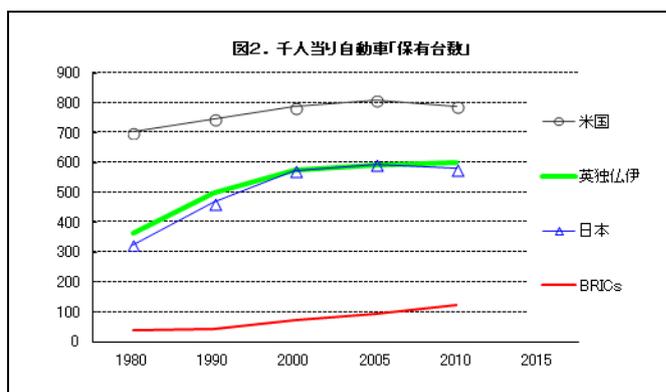
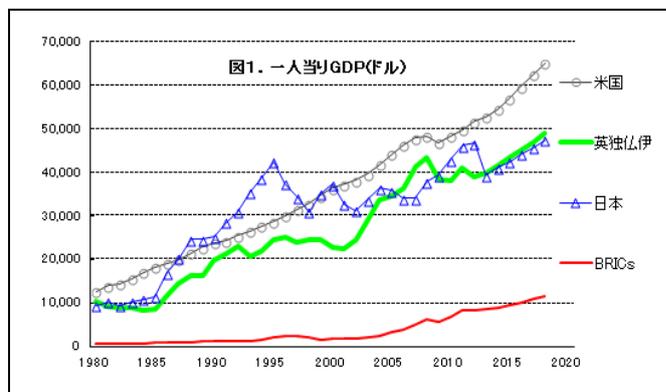
自動車「生産」(図4)

自動車は家計が購入する動産の中では最大の値がさ商品です。

自動車産業は装置産業であり多くの雇用・所得を生みます。

その自動車「生産」は先進国では横ばい ないし縮小気味です。

一方、BRICs など新興国では生産拡大が顕著です。自動車「生産」の拡大は新興国の雇用・所得・消費を増大させます。従って、自動車「生産」拡大は新興国の名目 GDP を押し上げる原動力であると言えます。



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「自動車生産」「名目 GDP」「株価」

「名目 GDP」と「株式時価総額」には連動性があります。そして、「自動車生産」は「名目 GDP」の大きな構成要素です。このため三者には連動性があります。

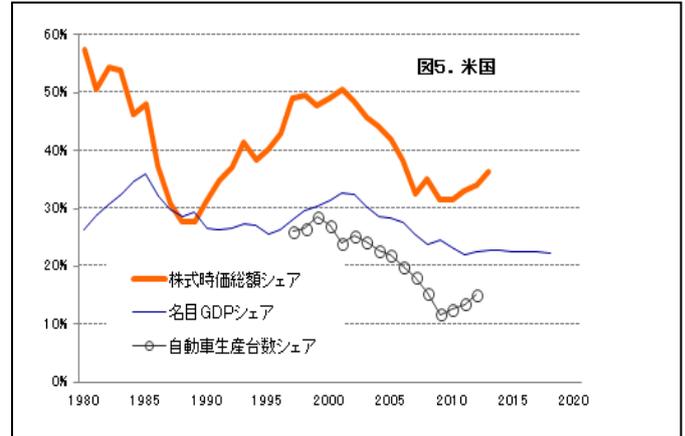
連動性を踏まえた今後の株価については次の様に考えています(5年先名目 GDP は IMF の予想)。

[米国]

自動車生産シェアの低下と共に名目 GDP シェアも減少傾向(図 5)

米国株式市場は世界中の企業が上場している市場でもあり株式時価総額シェアは名目 GDP シェアよりも上方乖離したトレンドで推移

米国株の現状はやや買われ過ぎの状態



[欧州先進国]

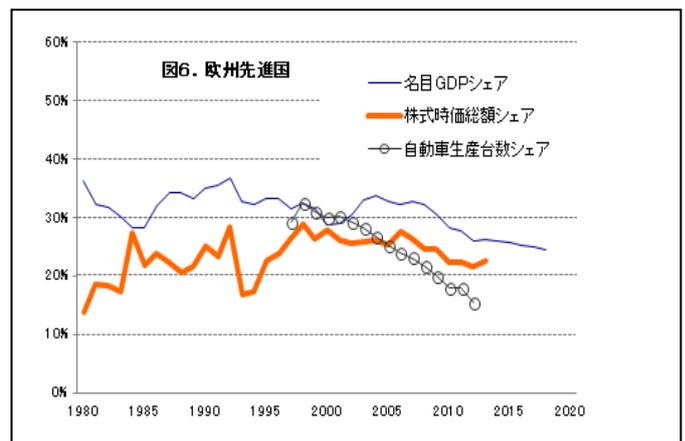
自動車生産シェアの減少が顕著

→ 名目 GDP シェアも減少傾向 (図 6)

欧州株式市場は比較的規模が小

このため株式時価総額シェアは名目 GDP シェアに比べ下方乖離したトレンドで推移

現在の注目市場ながら、長期的には厳しさも



[新興国]

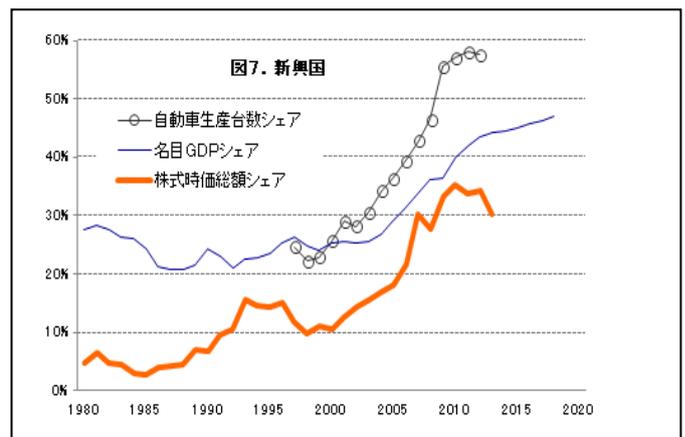
自動車生産シェアが急拡大

→ 名目 GDP シェアは今後も拡大 (図 7)

新興国株式市場は未成熟であり、株式時価総額シェアは名目 GDP シェアに比べ下方乖離したトレンドで推移

現状は短期循環な調整局面

今後は名目 GDP シェアのトレンドに沿って上昇する可能性大



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

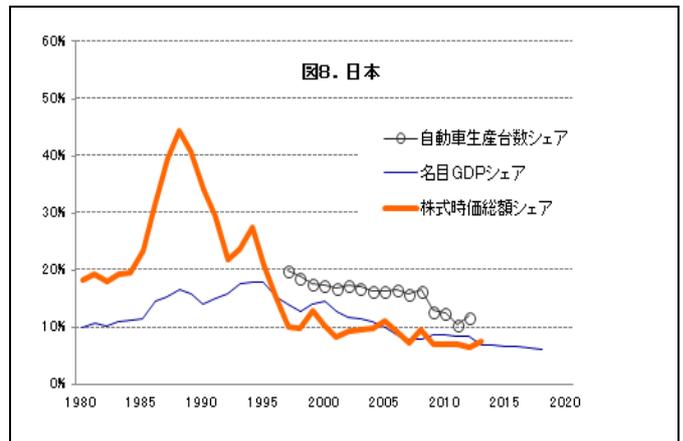
[日本]

自動車生産シェアは比較的高いが、最近では海外シフトで急低下（図8）

日本株市場は不動産バブル時代に名目 GDP シェアの3倍に拡大

→ その後の20年間は、「長期投資が報われない時代」に最近の株式時価総額シェアは名目 GDP シェアのトレンドに沿って推移

今後は名目 GDP シェア低下に伴い株価も厳しい動きに



日本の自動車「国内販売」「輸出」「海外生産」（図9）

日本の国内自動車需要は、このところ約500万台で頭打ちです。輸出台数も概ね横ばいです。

しかし、新興国中心に海外需要が旺盛なことから、日系メーカーは近年、海外生産を急拡大しています。

もし、この海外生産分を国内で生産し輸出していたとすれば日本に雇用が残り、所得・消費が拡大し、「失われた20年」を回避できたかもしれません。

しかしグローバル競争のもとでの「賃金格差」「円高」などが障害でした。

海外生産により国内の直接的な雇用は失われましたが、現地生産による利益が配当として国内に還元され、国内スタッフ部門などの間接的雇用・所得を賄ってきました。

この様に日本の自動車産業は厳しい輸出環境のなかで、

- ①競争力の強い高付加価値車を国内で生産し輸出することで最低限の国内雇用を守り、
- ②海外では主に大衆向け普及車を生産して数量増・売上増を追及し、連結利益を高めてきました。

自動車産業は日本の生きる道を実践してきたと言えます。

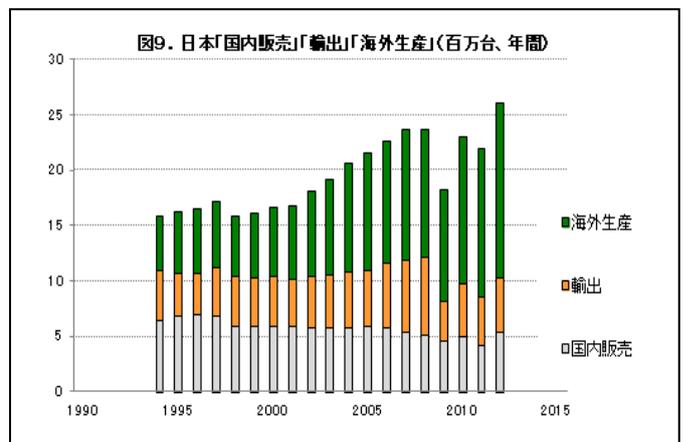


図1～9の出所:IMF、国際取引所連合、日本自動車工業会、国際自動車工業連合会

ユニオンファンドの地域別「目標投資比率」

ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式時価総額シェアと名目 GDP シェアを基準に投資しています。

そして、地域別「目標投資比率」は現在下記の通りとしています。

- 日 本: 目標投資比率「12%」（株式時価総額シェア比「+ 5%」）
- 欧米先進国: 目標投資比率「41%」（株式時価総額シェア比「▲23%」）
- 新 興 国: 目標投資比率「47%」（株式時価総額シェア比「+18%」）

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

- ユニオンファンドは、
①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。
- ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式時価総額シェアを基準に地域別「目標投資比率」を決め、それに基づいて投資しています。現状では、世界の株式時価総額シェアに比べ、「日本」と「新興国」のウェイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。
「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「新興国」 : 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場
- 12月の世界の株式市場は、前半は揉み合いの展開でしたが、後半は上昇しました。
 - ・米金融当局は中旬に超金融緩和終了への指針を発表しました。しかし内容が「極めて緩やか」であったことから、米国・日本・ドイツなど主要国の株価は高値を更新しました。
 - ・一方、新興国は中国中心に景気低迷が続き、株価は概ね横ばいで推移しました。
- 12月の基準価額推移…中旬まで揉み合いが続きましたが、下旬以降は右肩上がりの上昇となり、月末は新高値の19,295円(前月末比+2.9%)で終了しました。
- 12月も引き続き新規組入れ(買い増し)を見送りましたが、税制絡みで資金流出が資金流入をやや上回ったこと、基準価額が上昇したことから月末の組入比率は前月末比0.9%増の「87.2%」となりました。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

- ・世界の株価は2極化が進み始め、不安定感が出てきました。
好調な先進国市場はマネーが集中して過熱感が高まる一方、それ以外の市場は割安感が広がっています。
- ・各国の主なリスクは下記の通りです。
 - 米 国:超金融緩和の「縮小」による金利上昇、財政の「圧縮」
 - 欧 州:南欧債務問題の再燃(南北の格差拡大)
 - 日 本:アベノミクスへの懸念(賃金低迷下での物価上昇)
 - 中 国:景気減速下での不動産価格高騰、地方政府債務問題の顕在化
 - 新興国:先進国資金の流出・通貨安による利上げ、景気後退
 - 中東・アフリカ:シリア・エジプト・スーダン情勢の緊迫継続
- ・市場は株高期待が高まっていますが、上記リスクに敏感な展開を予想しています。

● 目標組入比率

- 現在の「目標組入比率:80~100%」を維持します。
- 株価の大幅下落局面では実際の組入比率を引き上げる方針です。

● 地域別目標投資比率

- 現在の「地域別目標投資比率」を維持します。
- …日本:12%、欧米:41%、新興国:47%

● ファンド選定

- 当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

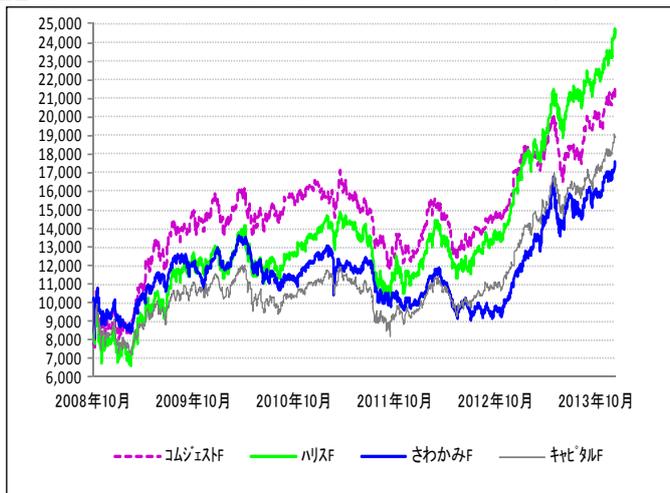
● ファンド別目標投資比率

- 現在の「ファンド別目標投資比率」を維持します。
- …「さわかみF」:12%、「キャピタルF」:18%、「ハリスF」:23%、「コムジェストF」:47%

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

4ファンドとも順調に上昇。
12月1カ月間の騰落率は次の通り
…「ハリスF: +4.7%」、「コムジエスF: +2.6%」
「キャピタルF: +4.5%」、「さわかみF: +2.7%」

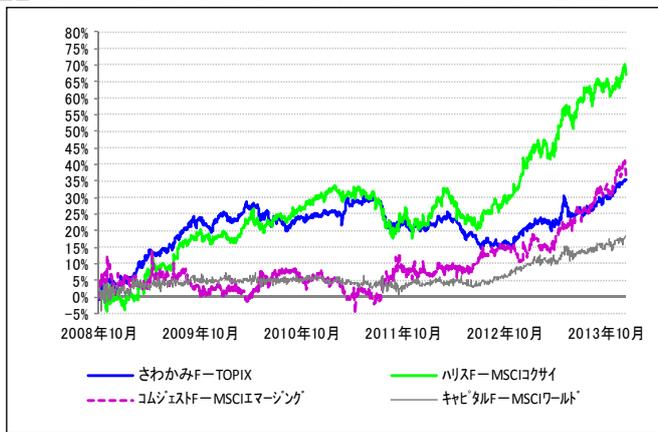
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「さわかみF」…設定来 35%凌駕
「ハリスF」…概ね 70%凌駕
「キャピタルF」…概ね 18%凌駕
「コムジエスF」…概ね 40%凌駕

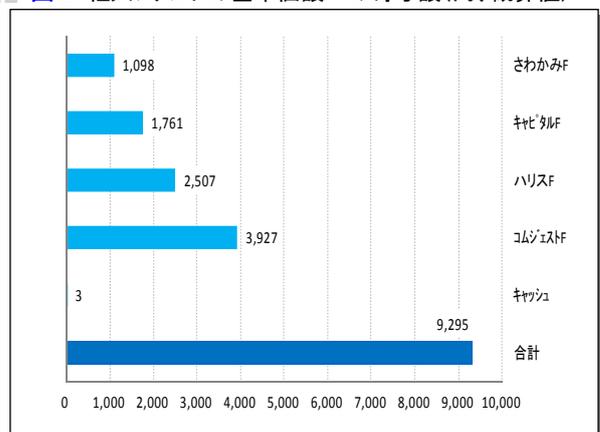
>> 図3 寄与額

12月末の基準価額が19,295円となっていることから、9,295円の評価益に。月末時点の寄与額内訳は第3図の通り。組入比率を加味した寄与度推移では「ハリスF」の貢献度が大きい。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」

>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

「時価総額シェア」…

新興国: 長期的に上昇基調、最近下落

欧米: 低下基調、最近上昇

日本: 低下基調から最近回復

「地域別目標投資比率」…

日本: 12%(シェア比+5%)

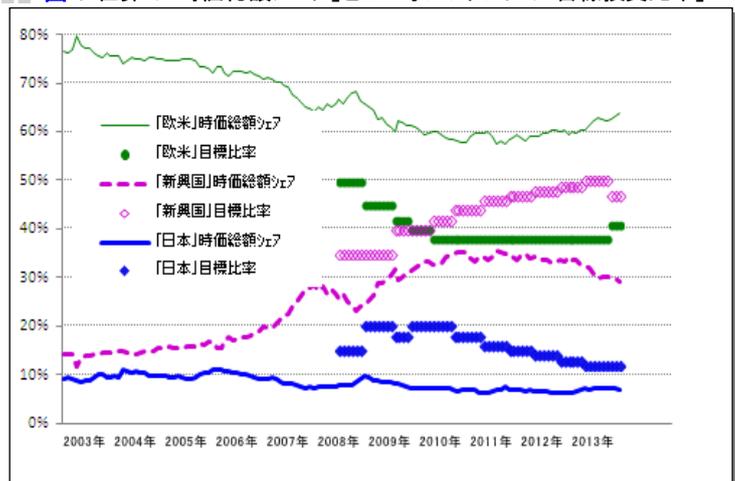
欧米: 41%(シェア比▲23%)

新興国: 47%(シェア比+18%)



運用部長(ファンドマネージャー)

坂爪 久男



(出所)「時価総額シェア」: ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

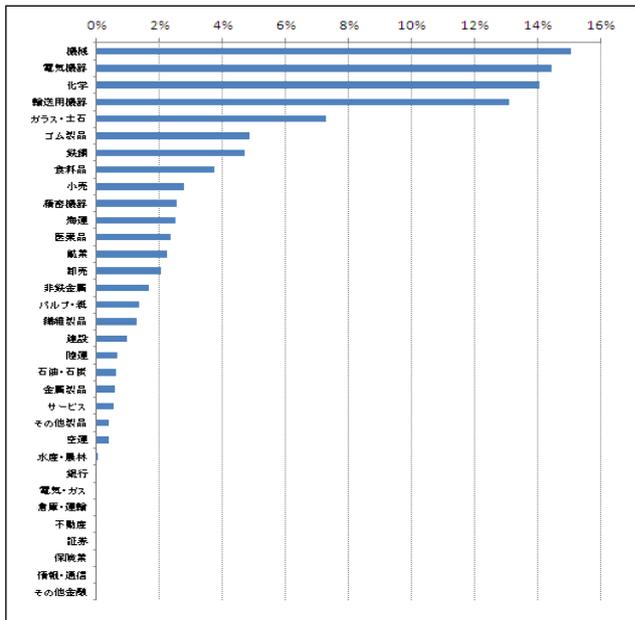
■ さわかみF（さわかみファンド）

■ 株式組入上位 10 銘柄等

2013 年 12 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	トヨタ自動車	5.5%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
2	ブリヂストン	4.8%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
3	デンソー	2.9%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
4	三菱重工	2.8%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
5	TOTO	2.6%	日本	ガラス・土石	衛生陶器トップ
6	花王	2.6%	日本	化学	トイレット紙首位
7	ダイキン	2.5%	日本	機械	エアコン世界首位
8	商船三井	2.4%	日本	海運	海運世界大手
9	日本特殊陶業	2.3%	日本	ガラス・土石	プラグ・センサー世界首位
10	国際石油開発帝石	2.2%	日本	鉱業	石油メジャー
	上位 10 銘柄	30.4%			
	その他 110 銘柄	67.3%			
	キャッシュ	2.3%			

■ 業種別構成比



業種：東証 33 業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。
組入銘柄数はピークの約 1/3 まで絞り込み。
- ◆ポートフォリオの特徴は、
 - (1) 「機械」「電気機器」「化学」「輸送用機器」「ガラス・土石」「ゴム」「鉄鋼」など“ものづくり”，“輸出型”企業の比率大。
 - (2) “内需型”企業では「金融」「通信」「不動産」「倉庫」「公益」などの比率を抑え、「食料品」「小売」「医薬品」など“生活関連”にシフト。
- ◆12 月は税制絡みの資金流出対応もあり、“ものづくり”，“輸出型”企業を中心に約 60 銘柄の全部または一部を売却。買付はゼロ。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF（キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドクラスA）

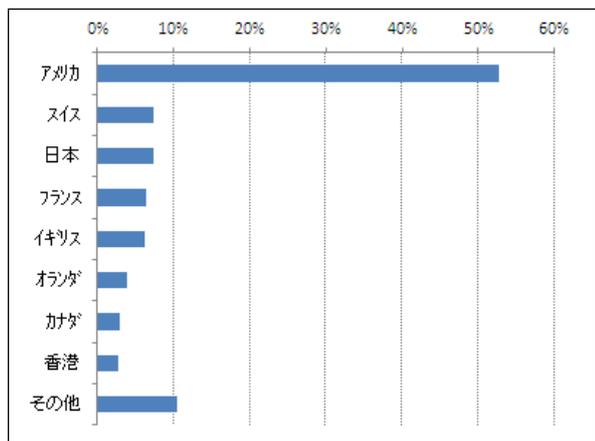
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2013 年 11 月末現在

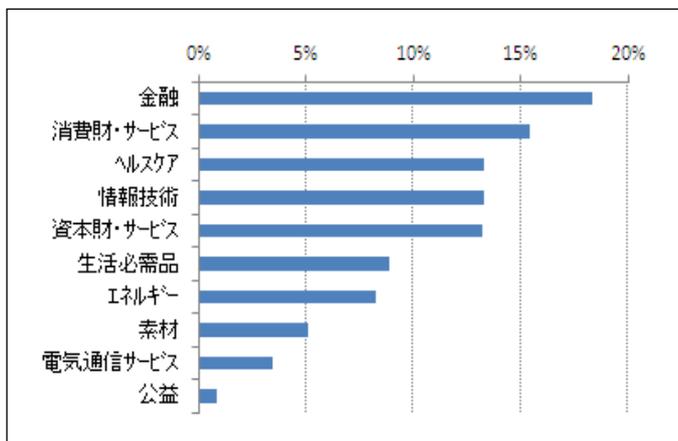
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Gilead Sciences	4.7%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
2	Google	2.3%	アメリカ	情報技術	ネット検索世界一
3	Goldman Sachs	2.2%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行
4	Bristol-Myers Squibb	2.1%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
5	Roche	2.1%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
6	Danaher	1.8%	アメリカ	資本財・サービス	コングロマリット
7	Nestlé	1.6%	スイス	生活必需品	世界最大の食品・飲料
8	Pernod Ricard	1.6%	フランス	生活必需品	洋酒大手
9	Prudential	1.6%	アメリカ	金融	生保大手
10	VeriSign	1.6%	アメリカ	情報技術	ネットインフラ・セキュリティ
上位 10 銘柄		21.6%			
その他 152 銘柄		76.3%			
キャッシュ		2.1%			

■ 国別構成比（マザーファンド）



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■ 業種別構成比（マザーファンド）



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資（150 銘柄程度）。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 半年前に比べ、「資本財」「情報技術」「消費財」が増加し、「エネルギー」「金融」「ヘルスケア」が減少。
「金融」が引き続き組入トップ（18%）。
- ◆ 組入上位 10 銘柄は大きな変動なし。
「ヘルスケア（バイオ）」「生活必需品」や「IT」「金融」が組入上位を占める。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

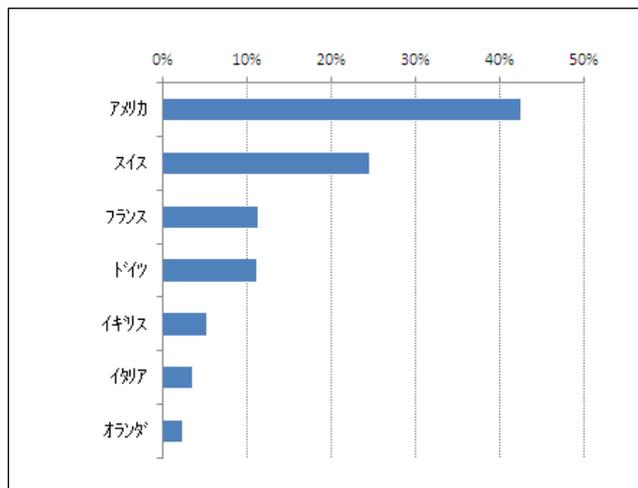
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2013 年 11 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	JULIUS BAER	4.5%	スイス	各種金融	プライベートバンク
2	ALLIANZ	4.4%	ドイツ	保険	総合保険大手
3	INTEL	4.2%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
4	CREDIT SUISSE	4.1%	スイス	各種金融	金融大手
5	DAIMLER	4.0%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
6	GENERAL MOTORS	4.0%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグスリーの一角
7	BNP PARIBAS	4.0%	フランス	銀行	金融大手
8	HOLCIM	3.6%	スイス	素材	セメント生産世界一
9	WELLS FARGO	3.5%	アメリカ	銀行	金融大手
10	CNH INDUSTRIAL	3.5%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー
上位 10 銘柄		39.8%			
その他 27 銘柄		56.2%			
キャッシュ		4.0%			

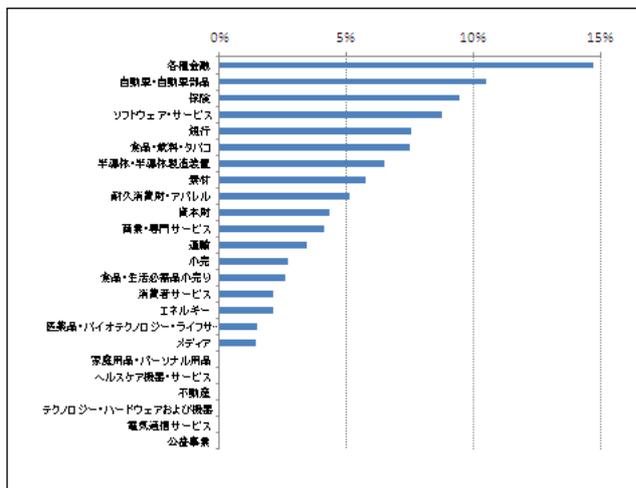
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2013 年 12 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本除きの世界各国に投資。
- ◆ 「金融」が最大の投資セクター (組入比率: 過去最高水準の約 32%)。貢献度は大。
業績好調なカード会社や資産運用会社などの比率を高め銘柄選択効果を効かせている。
- ◆ 「金融」以外では、景気敏感セクターの「自動車関連」「ソフトウェア」「半導体」や割安な「食品」などのウェイトを高めている。
- ◆ 株価が目標圏に到達した銘柄の利食い・割安株の買い付けを活発に行っているが、最近では割高となった「資本財」「消費財」「半導体」などを売却し、割安な「食品」「ソフトウェア」「各種サービス」などに入れ替え。

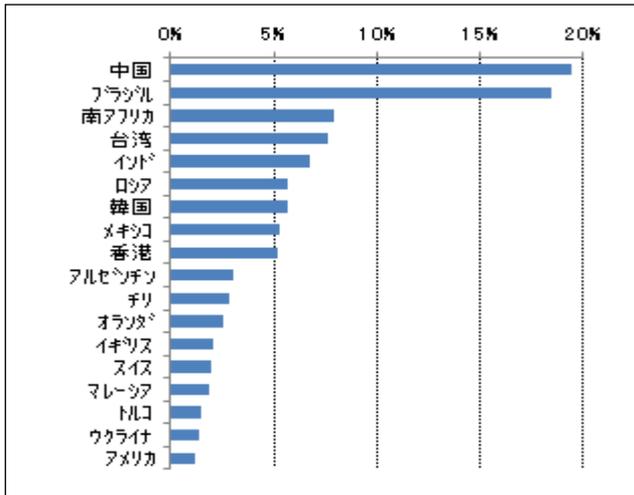
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2013 年 12 月末現在

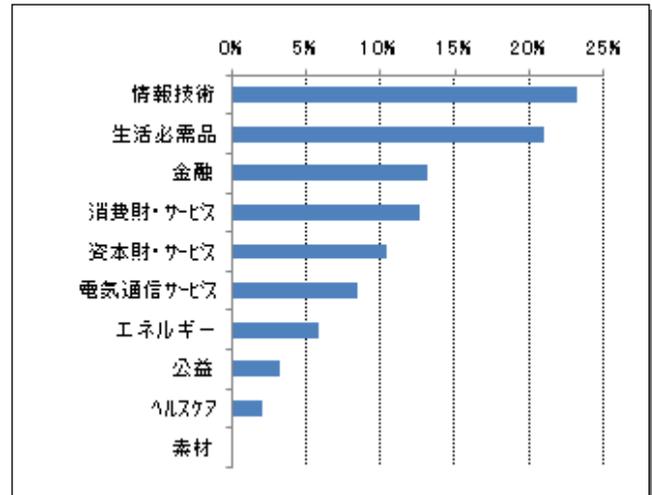
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	4.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	CHINA MOBILE	4.5%	中国	電気通信サービス	携帯電話
3	CHINA LIFE	4.1%	中国	金融	生保
4	BAIDU	3.9%	中国	情報技術	ネット検索エンジン
5	YANDEX	3.4%	ロシア	情報技術	ネット検索エンジン
6	PING AN INSURANCE	3.0%	中国	金融	総合保険
7	TENARIS	3.0%	アルゼンチン	エネルギー	石油掘削用油井管
8	NATURA COSMETICOS	2.9%	ブラジル	生活必需品	化粧品
9	CIELO	2.9%	ブラジル	情報技術	クレジットカード決済
10	HUTCHISON WHAMPOA	2.8%	香港	資本財・サービス	コングロマリット
	上位 10 銘柄	35.4%			
	その他 31 銘柄	61.6%			
	キャッシュ	3.0%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆新興国の割に 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆財務体質健全、積極的な情報開示、株価割安な企業に選別投資。
- ◆高成長新興国の企業を中心としたポートフォリオ。
- ◆新興国市場の主要セクターは「資源・エネルギー」や「金融関連」に大きく偏っているが(BRICs 諸国では概ね 5~6 割程度)、当ファンドは「生活必需品」「通信関連」などの安定成長セクターに高ウェイト(資源・金融は 1~2 割程度)。このため新興国市場が市況高(資源・原油高)で上昇する場合は追従できないことが多い。
しかし市況の下落局面では当ファンドは下げ渋ることが多く、長期的な相対パフォーマンスは良好。
- ◆最近の動きでは、「IT 関連(情報技術、ネット検索エンジンなど)」や「消費財」「資本財」の比率引き上げがパフォーマンスに貢献。「金融」も徐々に引き上げ(ボトム 5%から直近は 13%。銀行よりも生保・その他金融中心)。一方、安定セクターの「生活必需品」「通信」を引き下げ、「素材」はゼロに。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

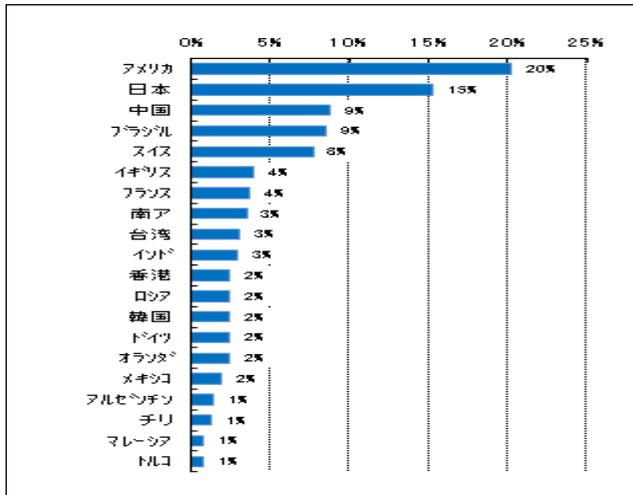
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

2013年11月末現在

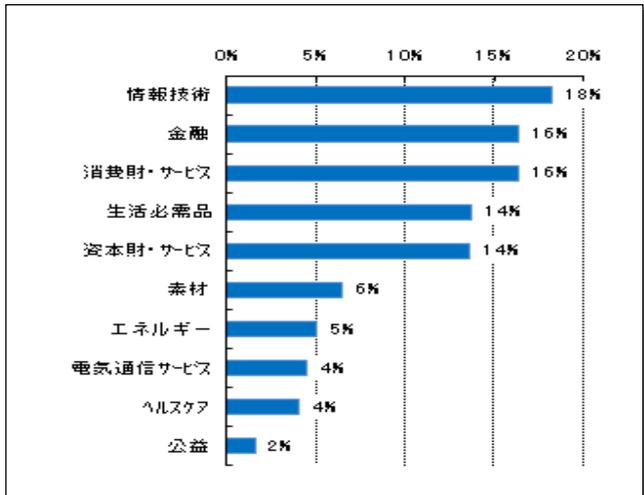
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	CHINA MOBILE	2.0%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
2	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.0%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
3	CHINA LIFE	1.9%	中国	金融	生保	コムジェストF
4	BAIDU	1.7%	中国	情報技術	ネット検索エンジン	コムジェストF
5	PING AN INSURANCE	1.5%	中国	金融	総合保険	コムジェストF
6	YANDEX	1.4%	ロシア	情報技術	ネット検索エンジン	コムジェストF
7	NATURA COSMETICOS	1.4%	ブラジル	生活必需品	化粧品	コムジェストF
8	TENARIS	1.4%	アルゼンチン	エネルギー	石油掘削用油井管	コムジェストF
9	CIELO	1.3%	ブラジル	情報技術	クレジット決済	コムジェストF
10	TATA MOTORS	1.3%	インド	一般消費財	自動車メーカー	コムジェストF
11	JULIUS BAER	1.0%	スイス	各種金融	プライベートバンク	コムジェストF
12	ALLIANZ	1.0%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
13	INTEL	0.9%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
14	CREDIT SUISSE	0.9%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
15	DAIMLER	0.9%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手	ハリスF
16	GENERAL MOTORS	0.9%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグスリーの一角	ハリスF
17	BNP PARIBAS	0.9%	フランス	銀行	金融大手	ハリスF
18	Gilead Sciences	0.9%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品ハイ	キャピタルF
19	HOLCIM	0.8%	スイス	素材	セメント生産世界一	ハリスF
20	WELLS FARGO	0.8%	アメリカ	銀行	金融大手	ハリスF
21	CNH INDUSTRIAL	0.8%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー	ハリスF
22	トヨタ自動車	0.7%	日本	輸送用機器	自動車世界大手	さわかみF
23	ブリヂストン	0.6%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
24	Google	0.4%	アメリカ	情報技術	ネット検索世界一	キャピタルF
25	Goldman Sachs	0.4%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行	キャピタルF
26	三菱重工	0.4%	日本	機械	世界的総合重機メーカー	さわかみF
27	Bristol-Myers Squibb	0.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品ハイ	キャピタルF
28	Roche	0.4%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手	キャピタルF
29	花王	0.4%	日本	化学	トイレット紙首位	さわかみF
30	デンソー	0.4%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー	さわかみF
上位 30 銘柄		29.7%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
その他 337 銘柄		56.6%				
キャッシュ		13.7%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■業種別構成比



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> コメント

- ☆組入銘柄数：367、投資国数：23 カ国。
- ☆組入上位 30 銘柄明細：40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比：アメリカが 1 位で 20%、日本が 2 位で 15%、3 位以下は中国の 9% など新興国が続く。
主要新興国では中国・ブラジル・南ア・インド・ロシア・メキシコの順。
- ☆業種別構成比：「情報技術」「金融」「消費財」「生活必需品」「資本財」の上位 5 業種で約 8 割を占める。
最近 6 カ月間の業種別動向：「金融」が増加し「生活必需品」「通信」が減少。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

下がっても下がっても減らないもの



ユニオン投信株式会社 取締役
清水 学

新年あけましておめでとうございます。ユニオン投信の清水です。

「株式」や「債券」、ユニオンファンドのような「投資信託」の評価(金銭的な価値)は、値段(株式＝株価、債券＝債券価格、投資信託＝基準価額)のみでは決まりません。企業で考えてみると分かり易いと思いますが、ある製品の単価が安くても販売数量が多であれば「売上」は大きくなります。逆に単価が高くても販売数量が極少であれば「売上」は小さくなります。つまり、「売上」は製品・サービスの【価格(単価)】と【数量】の掛け算で決まります。

企業の売上＝価格×数量

企業の売上同様に「株式」「債券」「投資信託」なども【価格】と【数量】の掛け算で価値が決まります。投資信託の場合は、下記の計算式となります。

投資信託の評価＝基準価額(投資信託の値段)×口数(投資信託の数量)

「株式」や「投資信託」などの価格が変動するものについては、【価格】のみに目がいきがちです。しかし、上記の計算式をご覧いただくと【数量】という重要な要素があることがわかると思います。以降は「投資信託」のケースで説明させていただきますが、【数量】である口数は「解約(換金化)しなければ」減ることはありません。【価格】である基準価額は日々変動し、ある期間によっては見るのが嫌になるほど下がり下がることもありますが、【数量】である口数は【価格】が下がり下がりでも「解約さえしなければ」減らないのです。

私は、「投資信託」の評価が【価格】と【数量】の掛け算で決まることを常に意識することが極めて重要と考えます。

【価格】と【数量】の両方とも大事ではありますが、特に資産形成期(≒現役時、老後生活に入る前まで)においては、【価格】よりも【数量】を強めに意識した方が良いと考えます。【数量】を意識すると、目先の儲け(利益確定売り、一時の節税)などで一部解約や全部解約をし目的外にお金を使ってしまうこと(＝浪費)を防げると思います。あるいは資産形成期中途での「一部解約や全部解約はもったいない」という感覚が芽生えてくると思われます。実際に私自身はもちろんです。【数量】を減らしてしまうのはもったいない！という言葉をユニオンファンドの多くのお客様から頂戴しております。

・・・ユニオンファンドの多く(75%強)のお客様が、積立投資(ユニオンファンドでの正式名称:定期定額購入サービス)を行っていることはお客様が【数量】を意識されている表れであると思います。

資産活用期(現役引退後の老後生活)においても、【数量】を一気に減らす(＝一度に全額解約する)のではなく、老後生活資金が足りない分や旅行など人生を楽しむ分を計画的に少しずつ解約していくやり方が、投資信託の賢い使い方であり、ゆったり・どっしりとした生活・人生をおくるための使い方であると考えています。

※投資信託の【価格】と【数量】の関係や「積立投資」については『半値になっても儲かる「つみたて投資」(講談社)(著者:星野 泰平さん)』に詳しくかつ分かり易く説明されております。私のお勧め本の一つです。

あるいは、拙著『年収300万円でも、死ぬまでお金に困らない!「自分年金」で2400万円つくる50の知恵(ソフトバンククリエイティブ)』をお読みいただければ幸いです。・・・著者印税は全額「東日本大震災の被災地・被災者の皆様」へ寄附しております。

2作とも本のタイトルが刺激的過ぎるかもしれませんが、「多くの皆様が心身共に豊かな人生を送って欲しい」という願いを込めた内容となっております。

平成26年1月3日記

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受取権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続き・手数料等」をご覧ください。 －

【申込手数料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

【信託報酬】 … 純資産総額に年0.84%（税抜き 年0.8%）の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年1.9%±0.3%（概算）]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 1月の送付書類について ◆

今月は二種類の「お取引に関する報告書」をご送付しております。

◎ 「特定口座年間取引報告書」

(特定口座をご利用で年間を通じて譲渡取引並びに配当受入れが行われたお客様対象です。)

特定口座内のお取引における「ファンド売却」による年間の譲渡損益等を記載した報告書です。

この報告書は、確定申告を行う場合、添付資料としてご利用いただけます。

年間を通じて譲渡取引並びに配当受入れが行われなかった特定口座のお客様へは、当該報告書について交付はいたしません。交付をご希望される場合は、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご請求ください。

◎ 「取引残高報告書」 今回のご報告は平成25年10月～12月中にお取引があったお客様が対象です。

◆ 取引残高報告書について ◆

※ 口座に残高があるお客様で、前回の「お取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合、1年おきに「お取引残高報告書」を作成いたします。(但し、「残高なし」の場合には作成されません)

「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

作成期間内にお取引された明細が記載されます。

- お取引の明細には、「ご入金」、「お引出し」、ユニオンファンドの「買」「売」が記載されます。
- 最後に表示される「お預り金」につきましては、「作成基準日現在」でお取引が成立していない場合には「お預り金」が表示され、お取引が完了されている場合は「0円」で表示されます。

「投資信託受益権等の残高明細」の見方

「ユニオンファンド」の作成基準日現在における残高口数、評価金額等の明細が表示されます。

「数量」…… ユニオンファンドの残高口数が表示されます。

「基準価額」…… 作成基準日(平成25年12月30日)現在の基準価額です。

「評価額」…… 作成基準日現在におけるお客様の「評価金額」を算出しています。
(「評価額」=「数量」×「基準価額」÷10,000です。)

「取得単価」※ …… これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。

「個別元本」 …… 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。

※ 「取得単価」は特定口座をご利用の場合、解約時に譲渡損益税額を計算するために使用します。

【取得金額(これまでのファンド購入充当額)の確認方法】

「数量」(残高口数) × 「取得単価または個別元本」 ÷ 10,000 で概算取得金額を確認できます。

「受渡日が1月6日以降のお取引明細」の見方

作成期間内に約定がありましても、受渡日が到来していないお取引がある場合に表示されます。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。